

本会の活動から

第8回日本タバコフリー学会 学術大会を主催して

日本タバコフリー学会の第8回学術大会を9月22日に東京都新宿区の東医健康会館で開催した。私がこの学術大会の大会長を務めるのは2回目、前回は6年前に、「タバコのない社会を目指そう」―検診・健診と市民運動からのアプローチ―をテーマに、肺がん検診と禁煙指導の結合の重要性について議論した。



今回は本会も共催して「喫煙者ゼロの職場を目指そう!」をテーマとし、個人ごとの禁煙指導ではなく、企業ぐるみで禁煙するにはどうすればよいかを中心に、講演やシンポジウムなどを企画した。

その結果、喫煙者のいない職場にするには、企業のトップが、従業員全員が禁煙することが従業員の健康のみならず、

経済的にも企業のイメージ的にもメリットが大きいことを深く理解し、あらゆる機会をとらえて多方面から喫煙従業員に禁煙をすすめるとともに、今後喫煙者は採用しないことを宣言する必要があることが確認された。

本会でも、健康診断の結果に基づいた健康相談や指導は活動の基本であり、受診者に健康指導をするにはその職員自身が健康な生活に努めなくてはならない。喫煙は健康を害する最大の因子であり、健康産業に携わる組織の職員は全員が非喫煙者であることはむしろ当然のことと思われる。

本会の運営する保健会館クリニックには禁煙外来もある。これを活用してもらい、一日も早く喫煙者の一人もいない職場にしたいものだ。

健康支援センター長 金子昌弘

日本超音波医学会第31回関東甲信越 地方会学術集会に参加・発表

日本超音波医学会の第31回関東甲信越地方会学術集会が10月19〜20日、関口隆三会長（東邦大学医療センター大橋病院放射線医学講座教授）の下、「Imagination」形態から機能、そして「」をテーマに東京都江東区で開催された。

超音波検査の対象臓器である各領域から117題が発表された他、各領域での特別企画が行われた。参加人数は1700人を超え盛況だった。

今回筆者は本会で発見された胆嚢がんの症例を報告した。超音波検査の所見から病変の深部に低エコー

日本超音波医学会 第31回関東甲信越地方会学術集会

テーマ「Imagination」
形態から機能、そして「」

会長 関口隆三（東邦大学医療センター大橋病院放射線医学講座教授）
会期 令和元年10月19日（土）〜20日（日）
会場 T F Tビル 西館2Fホール3000・5000 東館9F会議室
総合受付 西館2F



領域を認識し、深達度SSの胆嚢がん診断、腹腔鏡下胆嚢摘出術が施行された。病理組織診断は胆嚢頸部から体部に存在する胆嚢がんで、肉眼型は乳頭膨張型、腫瘍は乳頭状腺癌、深達度はSSであった。質疑応答では、専門医からの意見や病理からみた病変の解説などが交わされ、大変有意義だった。

その他、肝臓、脾臓の演題を聞き、健診施設ではみられない症例から病院内でも珍しい組織像を示した症例等、多くの演題を聞くことができた。

形態評価や深達度評価をする際、CTやMRIでは描出困難な部位も超音波検査では観察できることもあり、診断のための検査として超音波検査は大変有用であることを改めて感じた。

この学会で得た知識と検査技術をこれからの業務に生かしていきたいと思う。

検診検査部 程田琴美

第61回日本先天代謝異常学会 総会に参加して

第61回日本先天代謝異常学会総会、ならびに第17回アジア先天代謝異常症シンポジウムが10月24〜26日、高橋勉会長（秋田大学大学院医学系研究科小児科学講座教授）の下、秋田県秋田市にて開催された。本総会は「この想い、明日へ、そして未来へ繋げる」をテーマに、447人の医療従事者が参加した。

先天代謝異常症とは、遺伝的に特定の酵素等の機能が欠損あるいは活性の低下により、本来の身体（細胞）の機能が働かず、治療せずに放置すると生命の維持に危険を呈したり、各種障害をきたす疾患の総称である。

総会では各種疾患の症例報告や治療法および早期発見のための研究についての報告がなされた。中でも、細胞内小器官の一つのライソゾーム機能に関わる酵素欠損疾患（ライソゾーム病）について多くの

報告があった。近年、ライソゾーム病は治療法（薬）の進歩に伴い、早期発見の検査である新生児マススクリーニング（NBS）の対象となることが期待されている。

筆者は、「東京都におけるメーブルシロップ尿症マススクリーニングの成績と2次検査法の有効性について」と題した報告をポスターセッションで行った。

本症はアミノ酸代謝異常症の一つであり、本会ではNBSが開始した1977年から現在までに10例の罹患者を早期発見・治療に導いた。

本法を行う検査機関は多くないが、本会では、1次検査で疑わしい例を拾い上げた後に、2次検査として液体クロマトグラフィー／タンデム質量分析装置を使用し、本症に特異的なマーカーの検出を行っている。再検査率、精密検査率が全国と比較しても少なく、陽性的中率も高いため罹患者の早期発見および偽陽性例の低減に2次検査が有効であったと結論した。

今後、子どもたちの未来を想う気持ちを胸に、より有益な検査ができるよう邁進していきたい。

小児スクリーニング科 渡辺 和弘

第53回日本側彎症学会 学術集会に参加

第53回日本側彎症学会学術集会が11月8〜9日、群馬県高崎市で開催された。

今回の学術集会は「全脊椎を様々な角度から眺めてみよう!」というテーマの下、人体の軸である脊柱をさまざまな角度・視点から理解できるよう、多数の一般演題、シンポジウム、ポスターセッション、



講習会などが行われた。

学校検診に関わる小児側彎症のシンポジウムでは、2016年度より開始された運動器検診の有用性や脊柱側彎症発見率がモアレ検査と比べて低いなどの問題点があげられた。

また、現在、脊柱側彎症検診の方法としてさまざまな方法が普及している一方で、検診の対象年齢やスクリーニング方法が統一されておらず、確固とした検診システム構築の必要性が指摘された。さらに、同シンポジウム内での共同討議では、側彎症検診と運動器検診との関係性に触れつつ、今後

の検診のあり方や実施方法について活発な議論が交わされた。

また展示ブースでは、本会も開発に関わった3Dバックスキャナー（3次元モアレ撮影装置）が紹介された。この装置は、本会が実施している脊柱側弯症検診にも今春より導入される予定である。

現在、人工知能を用いてモアレ画像からコブ角と椎体回旋の程度を予測するソフトが開発されており、この3Dバックスキャナーで撮影されたデータを人工知能に学習させることにより、将来的にはモアレ検査の自動判定や脊椎の配列予想も可能となり、さらなる検診精度の向上が期待されている。

多くの講習や演題を通し、さまざまな角度から「側弯症」を見つめなおすことのできた2日間だった。

学校保健部 黒澤大和

健康づくり懇話会総会が開催

本会と本会のユーザーが、健康づくりに役立つ情報交換と相互交流を目的に運営している健康づくり懇話会の第28回



総会が11月1日、都内のホテルで開催された。

総会では、先頃会長に就任された東京トラック運送株式会社取締役の大野敦也氏より開会の挨拶があった。

続いて平成30年度の事業報告と令和元年度の事業計画が報告された後、渡辺巖太郎医師（健康教育、デザイナーズ代表）による特別講演「健康管理と遺伝学的検査——身近で分かりやすい遺伝の話」が行われた。

人・往来

東海大学の統合実習に協力

本会では毎年、東海大学健康科学部看護学科が行う公衆衛生看護学に関する統合実習に協力している。今年も10月7日に6人の学生を受け入れた。

実習では、労働衛生機関における看護職の役割について、聴講および保健相談を見学してもらった。実習後のカンファレンスでは活発な意見交換が行われ、「1年に1度の健診日を貴重な機会と捉えて健康支援を行うのが、労働衛生機関の保健師活動の一つであることを学んだ」などの感想も聞くことができた。

産業医科大学の現場実習に協力

産業医科大学では、5年生を対象に産業医学現場実習を行っている。

この実習は、産業医実務の現場において産業医の役割と活動を学生が実際に体験することで、産業医業務に対する理解を深め、産業医志向をより高めることを目的としたもので、全国49カ所の事業場で行われている。

本会では毎年この現場実習に協力しており、今年も11月11～15日の5日間にわたり、2人の学生を受け入れた。



小児健康相談室のご案内

検診で異常を指摘された子どもを対象に、専門医によるフォローアップを行っています

学校検診で異常を指摘されたけれど、近くに専門医がない。軽微な異常で治療は必要ないけれど、定期的な経過観察は必要。「小児健康相談室」では、そうした子どもたちを対象として、専門医による経過観察、生活指導を行っています。

検査や診断には費用がかかります（保険診療）。本会で学校検診を受けた方は、検査・検診時のデータを用いて診療や相談が可能です。

	腎臓病	心臓病	貧血	脊柱側弯症	肥満・コレステロール	思春期やせ症
担当医	村上陸美 日本医科大学 名誉教授	浅井利夫 東京女子医科大学 名誉教授	前田美穂 日本医科大学 名誉教授	南昌平 聖隷佐倉市民病院 名誉院長	岡田知雄 神奈川工科大学 応用バイオ科学部教授	鈴木眞理 政策研究大学院大学 教授
外来日	第3木曜日 午前	第1木曜日 午後	第1水曜日 午後	第2月曜日 午後 第4金曜日 午後	第3水曜日 午後	第1金曜日 午後

前田美穂先生による
『貧血電話相談室』
養護教諭・保健師・看護師からの相談をお受けします（無料）

開催日：第1水曜日 14時半～15時半



問い合わせ・申し込み

公益財団法人 東京都予防医学協会 学校保健部
東京都新宿区市谷砂土原町1-2

03-3269-1131

第289回ヘルスケア研修会

職域で役立つ 統計の見方、考え方

日時 1月29日(水) 14時~16時
会場 千代田区・「星陵会館」2階ホール

講師 正木基文氏 長崎県立大学 名誉教授

- 参加費 2,000円
- 申込不要 ●定員 200人(先着順)

問い合わせ 東京都予防医学協会 広報室
☎03-3269-1131 内線2241、2242

第29回 行動変容実践のための保健指導者養成セミナー

保健指導に必要な知識や理念を幅広く学びます また、生活習慣(食生活、身体活動、禁煙、節酒など)の 具体的かつ実践的な指導技術を習得します

日時 2月13日(木) ~16日(日)
会場 江東区・「東陽セントラルビル」2階ホール

講師 岡山 明氏 生活習慣病予防研究センター 代表・医学博士

- 受講料 40,000円+税 ※別途教材費として13,000円+税が発生
- 対象 保健師、看護師、薬剤師、管理栄養士 等

問い合わせ 日本家族計画協会(JFPA)
☎03-3269-4727 ※JFPAのHPからもお申込みいただけます。

第259回学校保健セミナー

脊柱側弯症検診 これまでとこれから

日時 2月18日(火) 15時~17時
会場 新宿区・「ホテルグランドヒル市ヶ谷」3階瑠璃

講師 渡辺航太氏 慶應義塾大学医学部整形外科学教室 准教授

- 対象 養護教諭・学校関係者 ●参加費 無料
- 申込不要 ●定員 200人(先着順)

問い合わせ 東京都予防医学協会 学校保健部
☎03-3269-1131

第290回ヘルスケア研修会

新しい高血圧治療ガイドラインと 血圧管理——医療者の役割のジレンマ

日時 3月25日(水) 14時~16時
会場 千代田区・「星陵会館」2階ホール

講師 久代登志男氏 日野原記念クリニック 所長

- 参加費 2,000円
- 申込不要 ●定員 200人(先着順)

問い合わせ 東京都予防医学協会 広報室
☎03-3269-1131 内線2241、2242

 **SHIMADZU**
Excellence in Science

超高速液体クロマトグラフ

Nexera

series Ultra High Performance
Liquid Chromatograph

EXPERIENCE NEW BENCHMARKS

お客様の分析ワークフローに対するさまざまな改善要望に応えるべく、保持時間や極微量の試料注入での優れた再現性能、高速多検体分析、低キャリアオーバー、試料の自動前処理技術、高感度検出、消耗部品の耐久性能向上など、高速液体クロマトグラフは常にお客様とともに進化し続けてきました。また、IoTやクラウドを活用したネットワーク技術により、ラボ内の機器情報を自動的に収集することで、装置の稼働状況を監視するだけでなく、いつでも最高の状態で装置が使用できる環境が容易に構築できるようになりました。

島津製作所は、これらの最新技術をさらに進化、融合させることで、「分析装置自身が考えて、お客様の分析ワークフローを支援する」という今までにない体験を提供します。

Intelligence、Efficiency、Designのすべてが新たな業界標準となるUHPLC。それが新しいNexera seriesです。



株式会社 島津製作所 分析計測事業部 Nexeraseries.com



謹んで新年のご挨拶を申し上げます
令和となって初めての新春を迎えるにあたり
都民の皆様の健康づくりに携わる健康支援機関として
役職員一同、気持ちも新たに
各種の保健事業に取り組んでまいり所存です
今年もどうぞよろしくお願いたします

公益財団法人
東京都予防医学協会 役職員一同

●個人情報の取扱いについて

日頃より、公益財団法人東京都予防医学協会の機関誌「よぼう医学」をご愛読くださりありがとうございます。

本会では、「よぼう医学」を送付させていただいている皆様について、送付に必要な情報（氏名、住所、所属、役職など）を送付名簿として保持しております。

これらの個人情報の収集、保存、利用につきましては、本会の個人情報保護方針に基づき、厳重な管理の下に運用しております。送付名簿からの削除や変更を希望される場合には、お手数ですが、下記広報室までご連絡ください。



●送付先の変更・送付中止について

送付先の変更・送付中止を希望される場合には、広報室までお知らせください。

Eメール koho@yobouigaku-tokyo.jp
F A X 03-3269-7562
T E L 03-3269-1131



健康管理コンサルタントセンター コンサルテーションのご案内

健康管理相談を お引き受けします

健康管理コンサルタントセンターの幹事である医師が事業所、学校、各種団体の健康管理をアドバイスいたします（予約制・無料）。

お問い合わせ・ お申し込みは事務局まで

健康管理コンサルタントセンター 事務局

東京都新宿区市谷砂土原町1-2
公益財団法人東京都予防医学協会 広報室
TEL 03-3269-1131 内線2241、2242

あなたの健康づくりを全力サポート!

よぼう医学

2020 WINTER 新年号 No.07
2020年1月15日発行 通巻第535号



●発行人 小野良樹
●発行所 公益財団法人東京都予防医学協会
〒162-8402 東京都新宿区市谷砂土原町1-2
TEL : 03-3269-1121
FAX : 03-3260-6900
URL : <https://www.yobouigaku-tokyo.or.jp>

●企画 広報企画委員会
●編集 広報室
●デザイン 大谷達也(有限会社アイル企画)
●印刷 大日本印刷株式会社

●『よぼう医学』は本会ホームページ(<https://www.yobouigaku-tokyo.or.jp/>)からもご覧いただけます。

※本誌掲載の記事、写真、イラストなどの無断転載をお断りします。



体の背面を三次元測定した定量的データを基にしており
従来の縞しまに比べ鮮明でより正確な等高線を表示します

脊柱側弯症の検診用 三次元モアレ撮影装置

3D バックスキャナー



特長

1. 体の背面までの距離や形状を三次元で測定した定量的データを基にしており、従来のモアレ縞しまに比べ鮮明でより正確な等高線を表示します。
2. 背面左右の縞の本数の違いや縞の幅の違いで表される隆起を判別しやすく、検査精度の向上を期待できます。
3. 視診や触診だけの検査に比べ、3Dバックスキャナーをご使用いただくと陽性的中率の向上を期待できます。
4. 脇・肩の立体画像を左右上下に回転して背面の隆起を見ることができ、検診精度の向上を期待できるだけでなく、手術前後の患者さんの説明にも使用できます。
5. 低消費電力で長寿命のLED光を使用しており、X線・レーザー光は使用していません。被検者さんに対して安全です。
医師や放射線技師でなくても撮影が可能です。
6. 一般医療機器として届出済みです。
7. 0.5秒で撮影は完了し、背中の中真正面から多少はずした位置から撮影しても、等高線を正確に表示することが可能です。
8. 専用記録装置は不要で、付属のパソコンでモアレ画像の表示や記録が可能です。
9. 太陽光が差し込まず、通常の室内の明るさである300ルクス以下であれば、暗幕のある理科室などの暗室は不用です。
10. 幅2m×奥行2mのスペースを確保いただければ撮影が可能です。
11. 準備は三脚設置→本体据付すえつけ→パソコン起動→撮影装置の自動調整の4段階で完了します。
12. 3Dバックスキャナーは撮影装置12.1kgと三脚4.3kgに分割して持ち運べます。それぞれ専用バッグを準備しています。

販売

日本臓器製薬
大阪市中央区平野町2丁目1番2号

お客様相談窓口 06-6222-0441
(土・日・祝日を除く 9:00~17:00)

製造販売

株式会社日本医療機器開発機構

東京都中央区日本橋本町二丁目3番11号 日本橋ライフサイエンスビルディング